

そうじの力だより

VOL.183



支援事例紹介



「捨てる」とは「執着を断ち切る」こと。
「やらせ」感から自主的な創意工夫へ

兵庫県丹波市の(株)森田石材店。さまざまな業務を「見える化」し、適切な管理ができるよう、整理整頓の行き届いた会社を目指しています。

この「そうじの力」プロジェクトも三年目に入りました。同社では、本社事務部門、葬祭部、技術部、本店営業部、篠山店、滝野店というそれぞれの部門が、お互いに協力しつつも、良い意味で競い合って活動を進めています。毎回の研修会においては、持ち回りで各部門の現場を見て回ります。改善を要する点については、いっそうの奮起を促し、改善が進んだ点については、褒め合い、他部門にも拡げていきます。

同社の共通した課題は、「モノを捨てる」こと。トップから末端まで、なかなかモノが捨てられず、当初はさまざまなモノがあふれていました。

本社の敷地内には、石材の在庫が山積みになっていました。もちろん、使うあてのある在庫は取っておくべきなのですが、中には、石種や形状から、使わない石もない石もありました。それらに見切りをつけて、時間のかかりました。



以前の石材置場

「石材＝宝」という意識を、「使わない石材＝ゴミ」という意識に転換することで、ようやくこれらの在庫を処分することができました。



現在の石材置場

これによつて、本社の敷地内にあった石材用のラックを半分撤去することができ、空いたスペースを有効活用することができるようになりました。荷受け作業がしやすくなり、トラックの駐車スペースも確保できるようにになりました。

この石材在庫の処分には、森田茂樹社長の並々ならぬ決意が表れています。先代、先々代から受け継いだ石材を処分することは、大きな勇気が要したことでしょう。

次に、販売店にも変化が訪れます。滝野店は、これまでなかなかモノが捨てられず、活動がいまひとつ進まなかった拠点です。

今回、異動があつて人が入れ替わったこともあり、以前とはだいぶムードが変わってきたようです。

以前は書類をはじめとするさまざまなものが収納され、一杯だった書

棚。今回見てみると、中身がスカスカになっていて、ずいぶんスペースに余裕があります。「以前にあつたものはどうしたのか？」と聞いてみると、「よくよく考えると不要なものばかりだったので、捨てました」との答え。

こうしてモノが減り、スペースに余裕ができてくると、残ったものをより機能的にするための配置(整頓)がしやすくなります。



スペースに余裕ができた書棚

また、事務所のデスクも同様に、「机上ゼロ」になっていました。以前のデスクは、パーテーションで仕切られ、それぞれの書類が机上に積み上げられていました。私が行くたびに、机上ゼロにするよう促すのですが、なかなか前に進みませんでした。

様変わりした滝野店を見て、他の部門の社員たちから、「頑張ったね!」「よく思い切ったね!」とお褒めの言葉が出ます。

滝野店の社員いわく、「捨てるも、何の問題もなかった」「やってみると、こちらのほうがいい」とのこと。

モノが捨てられないのは、しがらみが

あるからです。変なこだわりがあるからです。執着があるからなので

だからモノを捨てるという事は、しがらみを捨て、妙なこだわりを捨て、執着を断ち切る、ということなのです。

全般的に社員さんたちの話を聞いてみると、「以前はやらせれ感があつたが、今はそれぞれの社員がアイデアを出し合い、より良くしよう」と活動しているというふうです。

今後は、消耗品や販促品、そして商品の在庫についても、より適切な管理ができるように、社内の仕組みを整えていきます。

同社の「そうじの力」は、三年目を迎えて、徐々にですが、着実に実を結びつつあります。(小早)



机上ゼロ化した現在のデスク



以前のデスク周り

新サービス『環境整備診断』はじめました! 御社の「健康状態」を環境整備の観点で診断し、改善策をご提案します。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。



Youtubeチャンネル公開中! たくさんさんの企業の「そうじの力」の導入事例を動画で紹介しています。「そうじの力」で検索してみてください!

今月の読書から

『お父さん、日本のことを教えて!』赤塚高仁 著
～あらためて学びたい教育勅語～



今年2680年だ、と言うと、「何のこっちゃ?」と思われるかもしれませんが、これは「皇紀」のことです。日本神話によれば、紀元前660年2月11日に、神武天皇がわが日本を作ったとされており、日本は世界で一番古い国なのです。

「それは伝説であって事実ではない」と言う人もいるかもしれませんが、「そうだとされている」ことは事実であり、少なくとも見積もっても1300年以上、単一の王朝が続いていることは間違いなく、やはり世界一であることに変わりはありません。

戦後、GHQによって、学校教育で歴史や地理、修身を教えることが禁じられ、日本人は、「日本とはどういう国か?日本人とはどういう国民か?」ということを知るこ

となく生きてきてしまいました。

また、「戦前に尊ばれていたものはすべて全体主義的、軍国主義的なものだ」という刷り込みがなされ、日本神話や皇室のことや、祝祭日の意義なども、いっさい教えられなくなってしまいました。

そんな中でも、もっとも誤解されているのが、『教育勅語』ではないでしょうか。誰かが教育勅語を評価するような発言をした途端、「軍国主義に賛同するのか!」と、非難轟々で大騒ぎになります。

しかし、そうした非難をする人は、間違はなく、教育勅語を読んでいません。

私も、教育勅語は読んだことがなく、やはり、軍国主義的なものだと思っていました。ところが、あるきっかけで教育勅語の原文および現代語訳を読み、自分が完全に誤っていたことを知りました。

教育勅語には、軍国主義的な要素は一つもないだけでなく、天皇からの命令的な要素や、神道的な要素、家父長的な要素、男尊女卑の要素、そして滅私奉公的要素も、いっさいありません。

教育勅語で謳われているのは、「親孝行」「兄弟姉妹の友和」「夫婦の相和」「友との相互信頼」「謙遜」「博愛」「学問の奨励と就業の尊重」「智能の啓発」「人格の向上」「社会公共への貢献」「遵法」「義勇」の、12の徳目です。

これこそ、世界を平和に導く、日本が誇れる国家理念ではないでしょうか。

本書の「はじめに」が印象的です。

〈ある女子高生の話です。彼女は高1のときにアメリカに留学しました。(中略)あるとき、ホストファミリーのお母さんが彼女に聞いてきました。「日本はいつ、誰が作った国なの?」彼女は答えを知りませんでした。(中略)ホストファミリーのお母さんは驚き、そして諭すように言いました。「自分の国を愛せないで、他の国を愛せる? (中略)まずは自分の国のことをわかったほうがいいわ。〉

会社ならば、創業の歴史や理念を知ること、とても大切なことです。同じように、日本人として日本の起源や国家の理念を学びたいものです。(小早)

編集後記

健康の源は“お米”

ある社長からいただいた「健康本」。そこに書かれているのは、平たく言うと、ご飯(お米)をもっと食べなさい、ということ。

なぜかピンと来るものがあつた私は、さっそく実践。

すると、それまであつた不調が、みるみるうちに改善し、とても体調が良くなったのです!

これって、本当にすごいことです。さらに実践を続けて、いずれ、詳しくレポートしたいと思います。(小早)



飛鳥のつばやき

キャンパーへの道

土日の朝になるたびに始まる、長男氏の「きょうはどこに行く?」リクエスト。

行先もついにネタ切れを起こしてきたため、いよいよキャンプデビューに向け、用品を集め始めました。

Youtubeで家族キャンプ動画を見、近場のキャンプ場情報も集めて、シミュレーションだけはバッチリ☆イェ!

あとは、インドア派かつ面倒くさがりの、この重……い腰をいつ上げるか…。(大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ=環境整備”を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)